手描き部門　作品No.1　一片の想いを重ねて描く、2035年の神戸

ふよ



作品に込めた想い

「2035年の神戸」という将来像が、多くの市民や関係者の対話と想いを丁寧に重ねて作られた背景に深く共感し、その制作プロセス自体を作品で表現しました。本作品では、細かく裁断した色紙を一片ずつ指先で貼り合わせるモザイク表現を用いています。一人ひとりの市民やその想いに見立てた小さな色紙が集まることで、ポートタワーを中心に山・海・都市が調和する美しく力強い神戸が形作られていきます。手仕事で一片ずつ紡いだこの画面には、多様な人々が支え合い、みんなの手で未来の神戸を築いていくことへの希望を込めています。

工夫した点

色紙を細かく切り、密度の高いモザイク状に敷き詰めました。単色ではなく同系色の異なるトーンを混ぜ合わせることで、空のきらめきや海の深み、ポートタワーの立体感をグラデーションで表現しました。

特に見てほしい部分

根気よく貼り合わせた細かな色紙の一片一片が織りなす豊かな質感と、中央にそびえる鮮烈な赤のポートタワーです。色紙の手触りと色彩が織りなす、未来へ向けて光り輝く神戸の温かな空気感を感じてほしいです。

手描き部門　作品No.2　2035年の神戸で輝くあなたへ　inu



作品に込めた想い

2035年の神戸を読んで、豊かな自然と人々のあたたかさを改めて感じ、そのイメージを色鉛筆のやわらかなタッチで表現しました。白い雲が浮かぶ青空を背景に、世界へ飛び立つ飛行機、私たちを見守る六甲山系、市民の花・木として親しまれているアジサイとサザンカを配置しています。
そして、新たな時代を切り拓く若者たち、穏やかな時間を楽しむ親子、公園で思い思いの時間を過ごす人々の姿を通して、2035年の神戸で輝く主役は市民一人ひとりであることを表現しました。未来への希望を胸に、2035年の神戸で描かれたまちの姿に向かって歩んでいきたいという想いを込めています。

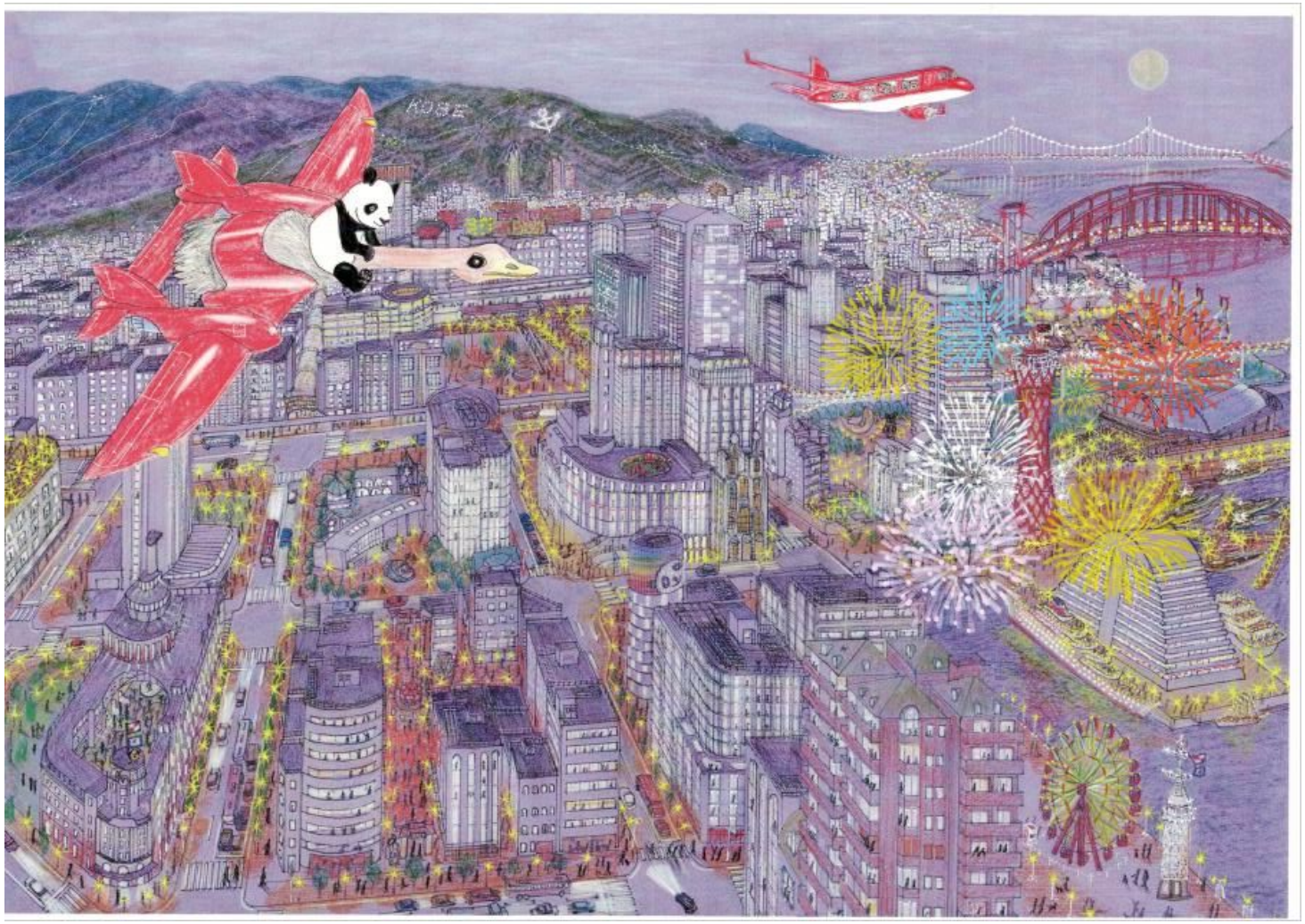
工夫した点

子どもからお年寄りまで、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちであってほしいという願いを込め、それぞれの世代がのびのびと過ごす姿を描きました。また、2035年の神戸に描かれた多彩な未来をイメージし、カラフルな線画で表現することで、未来へのわくわく感が伝わるよう工夫しました。

特に見てほしい部分

神戸の「自然」や「食」を表現したいと考え、いちご狩りを楽しむ親子の姿を描きました。北区や西区にも見られる農園をイメージし、自然が身近にある神戸らしさと、そうした豊かな体験が次の世代へ受け継がれていってほしいという願いを込めています。

手描き部門　　作品No.3　　ようこそ、神戸へ。 夜こそ、神戸へ。。



工夫した点

夜の神戸の楽しさを表現するために、特徴的な建物をピックアップし神戸の夜景を再構築し、ファンタジーを少し加えました。
見た目は今とあまり変わらないけど、何倍も楽しい神戸の夜が伝えられればと思います。

特に見てほしい部分

絵の中のパーツはどこから持ってきたものなのか、考えながら見ていただくのも楽しいと思います。
変わりつつある王子動物園の新旧アイドルにも登場いただきました。2035年を楽しみにしています。

作品に込めた想い

そう遠くない未来の神戸。今とあまり変わらない。でも全然違う。そんな「2035年の神戸」を描きました。
震災後、夕方早くに閉まる商店街、とても寂しかった。今もあまり変わらない。神戸の夜はもっと楽しくなって欲しい。
仕事を早く片付けているビジネスマン。今日は夕飯を作らない奥さん。塾と違う方向へ歩く子供たち。いつもと少し違う。
神戸は夜が楽しい。18時から22時。食事の後は、音楽ライブにスポーツ観戦。プロもアマも。美術館に博物館、動物園に水族館、工場見学も。大人同士も子供連れも。室内も屋外も。歩くだけでも楽しい。
準備は不要。時間を少し遅らすだけ。日常が非日常になり、それが日常になる。
夜こそ神戸。

手描き部門　作品No.4　未来へつなぐ、大好きな神戸　神戸のカブトムシ



工夫した点

神戸のさまざまな表情や生活の場面を描き、それぞれが神戸らしさを形づくる様子を表現しています。神戸らしい風景だけでなく、その中で過ごす人々の姿を描くことで、実際の暮らしが感じられる作品にしました。

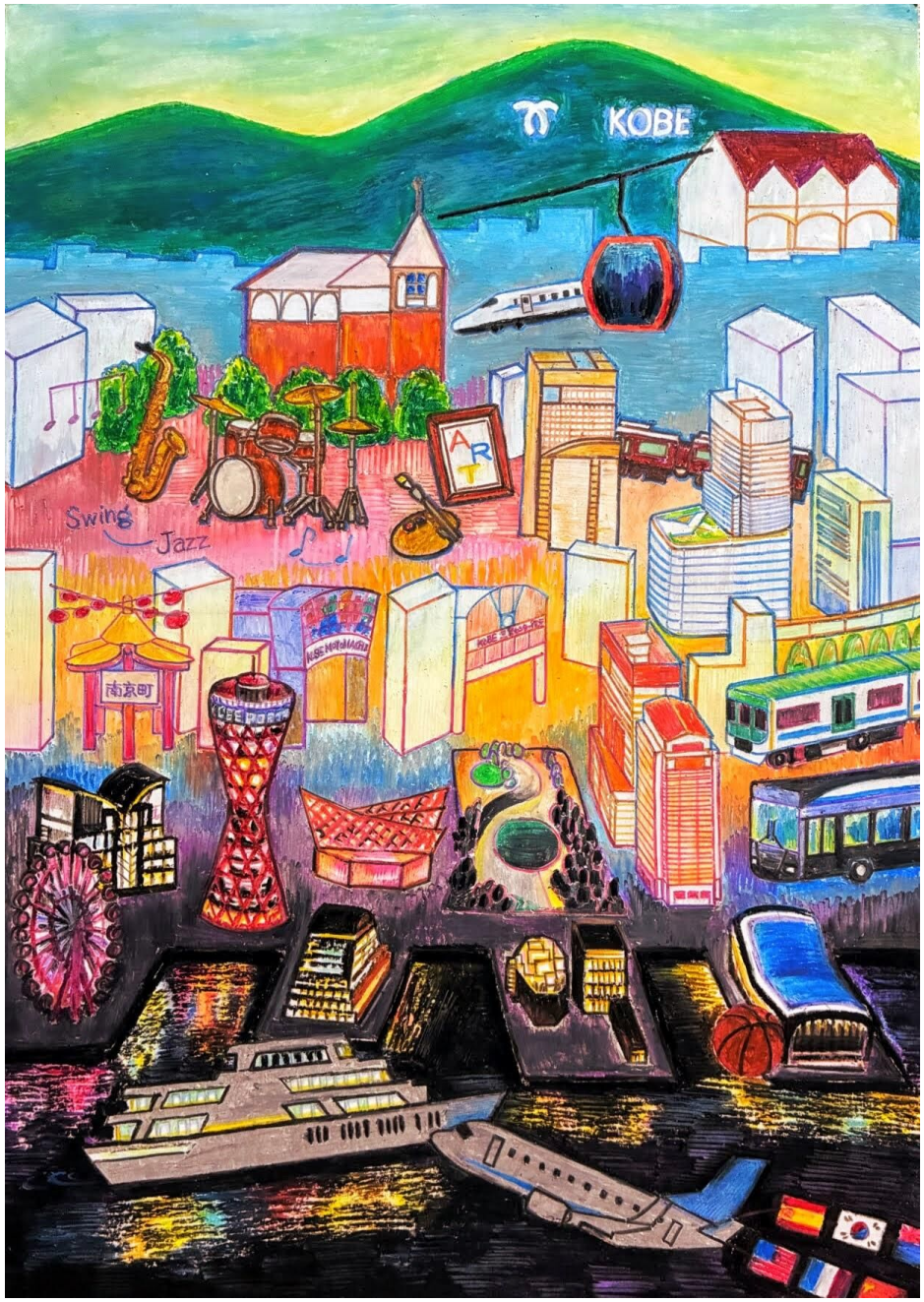
特に見てほしい部分

「2035年の神戸」は現在の延長線上にあると考え、空港の国際化や人中心の空間づくり、木陰の創出など、現在の神戸市の取り組みを随所に盛り込みました。自然や人とのつながりなど、神戸らしさが残っている部分にも注目していただきたいです。

作品に込めた想い

「2035年の神戸」は、単に新しいまちへ変わっているのではなく、これまで神戸が育んできた魅力を大切にしながら発展している姿であってほしいと思います。人口減少や少子高齢化が進み、デジタル化やAIの普及、自然環境の変化など、世界が大きく変わる中でも、豊かな自然や人のあたたかさ、歴史や文化といった神戸の魅力は、未来へ受け継がれていくはずです。この作品では、少し先の未来として、変わらず人々の暮らしの中に残り続ける神戸らしい風景やつながりを描きました。

手描き部門　　作品No.5　　流れゆく神戸の街



作品に込めた想い

「2035年の神戸」は遠い先の未来のようでいて、実はそうでもない。だからこそ、今ある文化や景観をより一層大切にしていきたいと強く想う。
神戸に生まれ、神戸で育ってきたからこそ、私はジャズとアートに出会うことができた。神戸の街は、昼夜問わずいつでも明るく温かく私たちを包んでくれる。
今ある神戸のシンボルたちに加え、これからの三宮には新たな建物が続々と築かれる。「2035年の神戸」は、新たなシンボルとなるであろうそれらの建物と、今ある神戸の文化芸術や風景が共存していく。その様子を、発色の良いクレパスを用いて神戸の煌びやかさを表現し、色鉛筆を併用することで彩りを保ちながらアウトラインを強調させた。

工夫した点

縦構図で大胆にし、神戸のランドマークを追うと全体が見えるよう視線誘導にも気を付けたこと。
また、「次代に紡がれていく」様子を、1日の時間の流れと意味を掛け合わせ、昼間から夜間の移り変わる景色から伝わる神戸の魅力と、それを何世代にも受け継いでいくように、と意味を込め、それをタイトルにも表明したこと。

特に見てほしい部分

神戸ポートタワーやTOTTEIから広がる夜景をぜひ見てほしい。神戸ならではのシルエットをした建物や、明度の低い夜の海に反射するそれらの鮮やかな灯りは、実際に夜景を見たときの感動を思い出しながらクレパスと色鉛筆で丁寧に描いた。
また、夜に飛び立つ飛行機から連なる数々の国旗は、神戸の友好国を描いている。

手描き部門　　作品No.6　　空から望む、神戸の未来



工夫した点

神戸を訪れる人々の期待や高揚感を表現するため、飛行機から街を見渡す構図にしました。到着前の高揚感と、目の前に広がる神戸の街並みへの期待を重ね、これから始まる出会いや発見に心躍る人々の視点を表現しました。

特に見てほしい部分

特に注目してほしいのは、神戸の街を照らす太陽の光です。光が街を明るく照らす様子に、世界各地から訪れる人々の出会いや交流が広がり、多様な文化や価値観が交わる未来への希望を込めました。光を通して、世界とつながる2035年の神戸を表現しました。

作品に込めた想い

私は、「2035年の神戸」の冒頭の一文から、神戸空港の国際化を通じて、国内外から多様な背景や価値観を持つ人々が神戸に集う未来を思い描きました。そこで、飛行機を神戸と世界をつなぐ象徴として捉え、機内から見た神戸の街並みを描くことで、世界中の人々が行き交い、新たな出会いや交流が生まれる姿を表現しました。また、上空から街を眺める構図を通して、海や山に囲まれた神戸の美しさと、世界へ開かれていく街の可能性を表現しています。この作品には、神戸が世界中の人々にとって、新たな出会いや発見にあふれ、訪れるたびに新しい魅力に触れられる街になってほしいという願いを込めました。



作品に込めた想い

多様な人々が笑顔で暮らし、互いに支え合いながら、誰もが安心して過ごせるあたたかな街、神戸。
さまざまな家族がおしゃれな街並みの中で、ずっとそれぞれの暮らしを楽しんでいくことができる姿を描きました。
一人ひとりの個性や違いを認め合い、自然と笑顔が生まれる街で、これからも人と人とのつながりの大切さを感じてもらいたい、そんな想いを込めています。
また、神戸の街は植物も多く公園も綺麗で、彩りと自然のぬくもりを感じます。
人々の笑顔と優しさが街全体に広がり、いつまでも変わらず、誰もが自分らしく暮らせる生活を綴ることができる街に。

工夫した点

水彩画の豊かな色彩と、切り絵ならではの立体感や動きを組み合わせ、それぞれの素材の魅力を引き立てるよう工夫しました。異なる表現方法を重ねることで、石造りの建物と家族の笑顔が引き立つ、温かみと奥行きのある作品に仕上げました。

特に見てほしい部分

一人ひとり異なる紙の柄で、それぞれの個性を表現しています。
多様な個性を持つ人々が、神戸という街で支え合ったり、自由に自分らしさを発揮したりできることを表現しました。

手描き部門　　作品No.8　　あかりを紡いで、みんなの側へ

みしま あきひろ



工夫した点

海、山、港、食、自然、人々の営みを一つの画面の中に重ねました。
特別で遠い未来でなく、神戸らしさの暮らしの循環が感じられるようにしました。
中央の光は、希望や祈り、未来へ受け継がれていくあかりを表現しています。

特に見てほしい部分

中心から広がる光と、その周囲に描いた多様な暮らしの風景です。
自然、文化、人の営みがそれぞれ独立しながらもつながっているところに、神戸の未来への願いを込めています。

作品に込めた想い

2035年の神戸を考えたとき、大切にしたいのは都市の発展だけでなく、一人ひとりの暮らしやその人らしさが守られ、みんなで未来へつないでいくまちの姿です。

神戸は震災や水害などの困難を乗り越え、人と人が支え合いながら歩んできました。1月17日に灯されるあかりのように、受け継がれてきた祈りや記憶、やさしさを未来へつなぎたいと思います。

自然と共に生きることも、多様な人々が共に暮らすことも、日々の積み重ねが必要です。それぞれの心に灯るあかりを大切に、一人ひとりが自分らしくあり続け、共に神戸の未来をつくっていく。そんな願いを込めて描きました。

手描き部門　　作品No.9　　足跡航路　　ぽぽ



工夫した点

幼い息子が夢中になって生み出したアートを活かせるよう工夫しました。まず自由に足形を付けてもらい、一番好きな色のクレヨンで背景を塗ってもらいました。その足形を飛行機や船に見立てることで、自分の足で未来や世界へ踏み出す姿を表現し、明るい黄色の背景で希望あふれる未来を強調しました。

特に見てほしい部分

息子の実際の足形を飛行機や船の形に見立てた部分と、それらを結ぶ足跡の流れに注目してほしいです。乗り物を「世界から神戸」だけでなく「神戸から世界」へ向かう形でも配置することで、人やモノ、情報、多様な文化が双方向に行き交う神戸の未来を表現しました。

作品に込めた想い

「2035年の神戸」を読んで、神戸の魅力は山や海などの豊かな自然だけでなく、神戸港を通じて世界とつながり、人やモノ、情報、多様な文化が行き交うことで発展してきたところにあると感じました。私は、そんな神戸が神戸空港の国際化によって、これまで以上に世界とつながる玄関口として発展し、多様性を受け入れながら、新しい挑戦や交流が生まれるまちであり続けてほしいと思っています。そして、息子を含め、これからの神戸を担う子どもたちには、自分の足で未来へ踏み出し、新たな時代を切り開いていってほしい。そして「神戸から世界へ」羽ばたいていってほしいとの願いを込めて、この作品を描きました。



作品に込めた想い

2035年の神戸を読み、海と山に囲まれた港町神戸の魅力や歴史、新しいことを取り入れ前に進んでいく神戸の気風、人と人とが支えあう街のあたたかさなど、自分自身が感じている神戸への想いとも重なり、深く共感しました。今の神戸の大好きなところ、これからも守りたい部分は受け継ぎながら、さらに神戸の自然や人々の心が豊かになるよう願いをこめて描きました。私の絵の中で、2035 KOBEをもつ手と手は多くの人々と描いた未来の姿をもっと人から人へつないでいきたいという思いを表現しています。また神戸はこれからの皆の思い、行動でどんな色にも輝いていけるという思いから、虹色にしました。

工夫した点

2035年の神戸の内容をなるべく多く盛り込もうと考えました。都心と農村、里山のバランス、人と人とのあたたかなつながりや前向きで明るい気持ちが伝わるようにしました。

特に見てほしい部分

人々が笑顔で活気にあふれているところです。海や山の豊かな自然に加え生き物も大事にしたいと思い、ところどころに加えました。家の屋根やビルの窓は太陽電池のつもりです。